

11月5日(金)

JABSOM (John A. Burns School of Medicine University)

報告: 盛 彬子 (Bグループ)

---

8:30 ホテルロビーに集合

check out をすませ、Ala Moana Hotel に別れを告げて、最終日 start。  
JABSOM へ。

9:00 JABSOMにて Dr. Izutsu の講義

① Hawaii University 医学部について

HU 医学部は 1975 年、一学年 65 人で創設され、現在、約 2000 人の応募から 60 人が選抜される狭き門である。一般大学を 4 年間終え、さらにその先に医学部 4 年間がある。出身大学は文系、理系を問わず、およそ半々ぐらいの割合で医学部に入学しているようである。

学生は、MCAS というアメリカ医学部受験を管理しているところへ履歴書を送り、学歴や大学 4 年間の成績、ボランティアなどの社会奉仕を評価される。さらに、臨床推理、生物、物理、論文の subtest がある。この一次審査をパスすると試験管との一対一の面接が 2 回ある。各々一時間ずつで、あらかじめ受験生の書いた 3 つの論文を読んでいる試験管によって reader ship skill、interpersonal communication、help people、physical and mental strength について評価される。

② Hawaii の歴史について

語源について

Hawaii では ALOHA、MAHALO という言葉をよく耳にするが、

ALOHA: I like you/I love you/Good bye

MAHALO: Thank you/respect

という意味であるそうだ。

日本人は 1885 年に Hawaii に入植したが、現在の Hawaii の人種割合はアジア人が 41%でそのうち中国人、日本人、韓国人の順に多い。24%は白人で、9%は native Hawaiian(2000 年前からいる)、21%は混血の人たちだそうだ。

などなどのお話を聞いた。

10:00 終了

10:30 Dr. Machi の講義

医学教育と研修について

現在日本では医師不足が謳われているが、医師数よりも医師の質や職業環境を良くすることが大事である。

医学教育においては、①patient care、②medical knowledge、③practice、④interpersonal and communication skills、⑤professionalism、⑥system based practice が大切で、疾患ごとに standard care を学び、上級医は常に下級医を教育する義務があるとのことであった。

11:45 講義終了し、lunch

HUのカフェテリアにて Dr. Izutsu、Dr. Machi とともに会食。

Dr. Machi が日本で挑戦しようとしている研修病院の設立プランについての熱い思いが伝わってきた。